



# 核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN) 概要



# ICANとは？

**核**兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)は、核兵器禁止条約(NWC)の多国間交渉を2015年までに開始しようという世界の人々と政府の声を高めるためのキャンペーンです。核兵器禁止条約とは、核兵器の製造、実験、保有および使用を禁止するとともに、合意された時間枠の中でそれらを廃棄するために必要なメカニズムを確立するものです。すでに世界の過半数の国々は、このようなプランに支持を表明しています。もちろん、世界の人々の過半数もそうです。しかしそれを現実にするには、あなたの力が必要なのです。

## 運動をつくる

ICANは、2007年に12カ国で発足しました。その年にオーストリアで開かれた核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会では、私たちは180カ国以上の政府代表に対して最新版の「モデル核兵器禁止条約」を提出しました。

発足以来ICANは、核廃絶運動を広げながら核兵器禁止条約こそ核兵器をゼロにするためのもっとも現実的な道であることへの理解を築き上げるために、運動方針を調整してつくり上げ、各国および国際レベルの運動とのネットワークを強めてきました。

今日までに、60カ国200団体以上がこのキャン

ペーンに参加しています。核戦争防止国際医師会議(IPPNW)や平和市長会議をはじめとするパートナー団体が名を連ねています。キャンペーンの大使として、ダライラマ法王、かつての反アパルトヘイト運動リーダーであるデズモンド・ツツ大司教、ノーベル平和賞受賞者であり地雷廃絶運動家のジョディ・ウィリアムズ氏、伝説のジャズ奏者ハービー・ハンコック氏、オーストラリアのクリケット・チャンピオンであるイアン・チャペル氏など、各界の著名人もICANに加わっています。彼らのサポートによって、私たちはICANのメッセージを新しい支持層へと広げることができました。

## 2010年NPT再検討会議

2010年5月の核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて、ICANは、核兵器禁止条約を国際的論議の主流に据えるための働きかけを世界規模で調整して取り組んできました。その中では、核兵器禁止条約が正統で現実的かつ短期的な目標になること、そして現在の核不拡散体制を補完し強化するものであることを強調してきました。

このような取り組みの成果として、NPT再検討会議の最終文書は、包括的な条約をめざすというアプローチの重要性を認めました。これによって、核兵器条約のための協調行動への道が開かれました。

## ICANのこれまでの流れ

### 1995-2006

■すべての核兵器を合意された時間枠の中で禁止し廃棄するためのモデル条約を市民団体が起草

■すべての核兵器を廃絶するための包括的な交渉のための準備作業を世界の運動家たちが開始

### 2007

■核廃絶を支持する世論のうねりをつくるために、世界をまたいでICANが発足

■コスタリカとマレーシア政府がモデル核兵器禁止条約を更新して国連に提出



# 私たちのプラン

**N**PT再検討会議で核兵器禁止条約に対する支持がかってないレベルで表明されたことを受けて、ICANはこれから、核兵器禁止条約を国際社会における次の重要な交渉目標として位置づけるよう、各国の市民団体や政府に対して働きかけを強めていきます。

私たちは、主要な国際的および各国の人道、人権、反戦、環境、軍縮団体の完全なる支持をえることをめざし、支持してくれる政府と連携していきます。

ICANは、核廃絶条約の考え方を支持しその必要性を説くような教材をつくり、老若を問わずさまざまな地域的・政治的関心をまたいで、幅広い層に向けて情報を広めていきます。そのために、従来からある通信技術はもちろんのこと、ユーチューブなどインターネットを使った新しい技術を活用していきます。

私たちはまた、「100万人のプリーズ」プロジェクトをさらに広げ、各国の指導者たちに核廃絶条約を交渉するよう呼びかける世界最大のビデオ・チェーンレターにしていきます。このビデオの冒頭を飾っているのは、広島の高校生たちです。



## 2008

■60カ国以上の諸団体がICANがめざす核兵器禁止条約の目標に賛同

■潘基文国連事務総長も核兵器禁止条約への呼びかけに加わる

## 2009

■ノーベル平和賞受賞者や著名なミュージシャンやスポーツ選手らがキャンペーンに加わる

■核廃絶条約を支持する政府を増やすための世界規模の働きかけをICANが開始

## 2010

■5月のNPT再検討会議で120カ国以上が核兵器禁止条約を呼びかけ

■世界最大のビデオ・チェーンレターである「100万人のプリーズ」をICANが開始

# ゼロへの道筋

**今**や世界中の国々の指導者や政府が、核兵器のない世界というビジョンに賛同を表明しています。ならば彼らは、その目標をどのようにして現実のものにしていくかを考えなければなりません。他の種類の兵器を禁止したのと同じように、多国間交渉によって核兵器禁止条約をつくることは、軍縮と拡散防止を組み合わせたもっとも現実的な道です。世論調査によれば、世界の人々の過半数は自国の政府にそのような交渉を始めてほしいと考えています。私たちの目の下の課題は、そのような人々の安全への強い願いを、政府による現実の行動と実りある交渉へと転換していくことです。

## どのような条約なのか

核兵器禁止条約は、核兵器および核兵器に使用可能な核分裂性物質を包括的に禁止するものです。いかなる国や人による核兵器の使用をも禁止するとともに、テロリストや政府が核装置を入手したり、根本的な使用禁止に違反したりしないよう国際的な義務を課し、重い罰則を定めます。ミサイルなどの運搬手段は解体されるか、あるいは、核弾頭を発射できないような形に転換されます。すべての核兵器保有国は、条約で合意された措置と段階を踏んで保有核兵器を解体することが定められます。そして、条約が守られているかどうかを検証するための国際的監視システムがつけられます。

## なぜ必要なのか

核兵器禁止条約は、1968年につくられた核不拡散条約(NPT)をさらに発展させるものです。NPT

## 核兵器禁止条約に賛成しているのは何カ国？

賛成	140カ国
決めかねている	22カ国
反対	30カ国



は、改善への努力がこれまで続けられてきたにもかかわらず、核兵器のない世界を実現し維持していくために必要な効果的メカニズムをいまだに持っていません。条約の発効から40年経ちましたが、世界にはいまだに2万発以上の核兵器が存在し、それらを廃絶するための包括的なプロセスは何ら進んでいません。核兵器禁止条約をつくることこそ、核兵器のない世界のためのもっとも明白で現実的な道です。これまでも生物兵器、化学兵器、対人地雷やクラスター爆弾を非合法化するために、包括的な条約が交渉されつくられました。核兵器を例外にしておくべきではありません。

現在の国際社会がとっている「一歩ずつ」(ステップ・バイ・ステップ)のやり方では、満足いく結果は生まれていません。核拡散の脅威は高まり、核保有国は自らの核兵器を手放そうとしないままです。新しい道がいま、必要とされているのです。

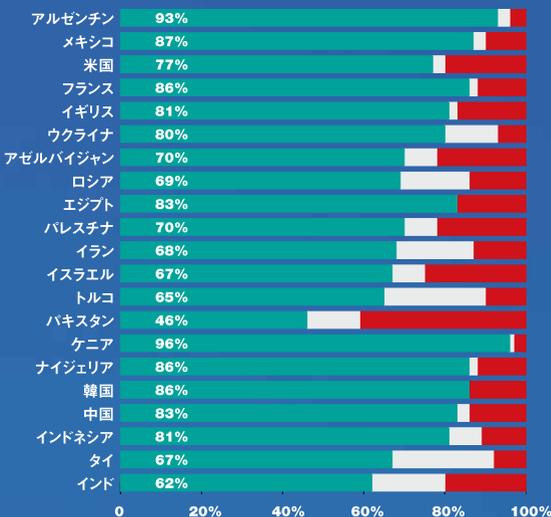
“核兵器禁止条約は可能であり、必要であり、ますます緊急に必要である。私は核兵器のない世界を想像することができる(I CAN imagine)。ICANを支持します”

ダライラマ法王

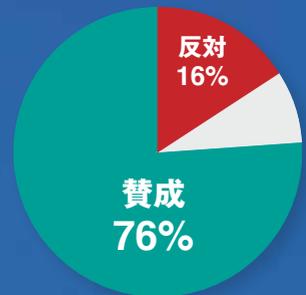


# なぜ核兵器禁止条約なのか？

- 1 核兵器を完全に廃絶することは、緊急に必要な政治課題であるとともに、**そのための好機がいま訪れている。**
- 2 核兵器禁止条約は、核兵器の使用、配備、製造および拡散が**いかなる国や人によっても非合法である**と定めることで、核の危険を下げます。
- 3 核廃絶は、**世界の3分の2の国々の政府が賛同**しており、世界中の圧倒的多数の世論もこれを支持している。
- 4 核兵器禁止条約に向けて作業することで、**現行の不拡散体制が強化**され、また軍縮をすすめる環境がつけられる。
- 5 核兵器禁止条約は、**NPTに加盟していない国々をも巻き込んで**、すべての国に効果的に差別的でない義務を課すものになる。
- 6 核兵器禁止条約に向けて作業することで、**中間的な措置が促進**され、不拡散および軍縮それぞれの取り組みが互いに近づく。
- 7 核兵器禁止条約は、核兵器の**いかなる使用も戦争犯罪であり人道に対する罪である**ことを法的に認定する。
- 8 核兵器禁止条約は、すべての核兵器保有国が**現有する核兵器を速やかにかつ安全に廃棄**するための段階的な道筋を策定する。
- 9 核兵器禁止条約は、**条約が守られていることを検証するための制度**を、現行のものよりはるかに効果的な形で確立し、各国間の信頼醸成につながる。
- 10 世界の国々はこれまで、他の非人道兵器の禁止条約を交渉してつづけてきた。ならばいま、**すべての人にとってもっとも非人道的な核兵器を禁止**すべきである。



## 核兵器禁止条約に対する世論の支持



世界平均でみた支持率



100万人のプリーズ

MILLION **pleas**.COM

**広**島・長崎への米国による原爆投下から65周年にあたり、ICANは「100万人のプリーズ」というプロジェクトを立ち上げました。これは、世界中から100万人の人たちが核兵器を廃絶する条約を求めるメッセージを寄せる、世界最大のビデオ・チェーンレターをつくらうというものです。このチェーンレターを始めたのは、広島の高校生たちです。

“ 各国の指導者たちに対する世界最大のビデオ・チェーンメッセージにあなたの声を家や学校から加えましょう。それによって、核廃絶条約への世論のうねりをつくることができます。ヒロシマ・ナガサキから65年経ったいま、核兵器を終わらせるときです ”

デズモンド・ツツ大司教 (1984年ノーベル平和賞受賞)

“ 地球上から核兵器をなくすことを政治家たちに任せられてはいけません。この目標を実現するための最大の機会、私たち自身が立ち上がり核兵器のない世界で生きる権利を求めることによって得られるのです。ぜひ今日、100万人のプリーズ (millionpleas.com) にあなたの声をアップロードしてください ”

ジョディ・ウィリアムズ (1997年ノーベル平和賞受賞)



# うねりをつくる

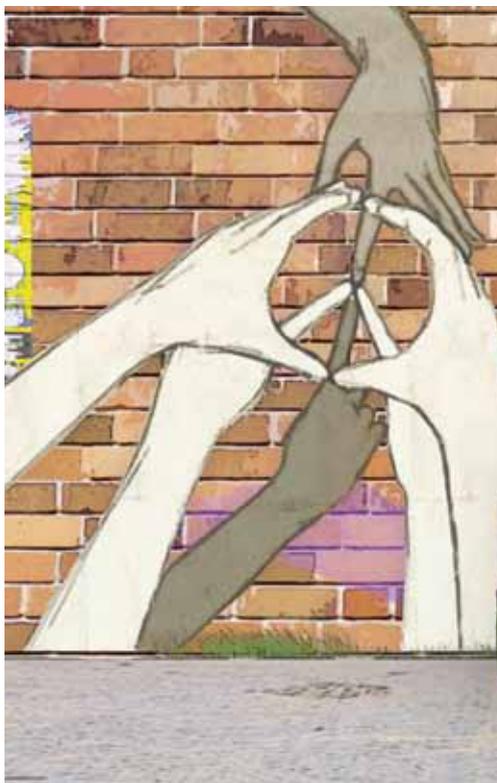
**I** CANの主要な国際的パートナー団体としては、核戦争防止国際医師会議(IPPNW)、平和市長会議、国際労働組合総連合(ITUC)、ノーベル女性イニシアティブ、国際連合協会世界連盟(WFUNA)、婦人国際平和自由連盟(WILPF)、国際反核法律家協会(IALANA)などがあります。私たちは、各国のICAN傘下(オーストラリア、イギリス、フランスなどではそうした国ごとの枠組みができています)とともに活動するグループのネットワークを広げていこうと考えています。

## 多様なグループとともに

核廃絶のための運動を効果的に進めるには、幅広いグループの関与が必要です。地雷やクラスター爆弾を禁止する取り組みの中では、人道団体が中心的な役割を果たしました。2010年4月には、国際赤十字委員会(ICRC)が初めて、核廃絶を最優先事項の一つに掲げることを表明しています。

また、開発に取り組む団体が参加することで、過剰な軍事費という大きな問題に注目を集めることもできるでしょう。核兵器に毎年使われている資金の用途を転換することによって、気候変動問題を緩和し貧困を減らすなど、開発と安全に関わる問題を解決するのに大きく役立てることができそうです。

核兵器が爆発すれば、放射線が広範囲に広がり、地球全体が暗い雲に覆われ冷却されるなど、人間と環境の破壊につながります。私たちは、この問題についての意識を喚起することによって、人道団体や環境団体とともに、こうした破滅的事象が起きるのを防ぐためにも核兵器禁止条約の交渉とともに求めているこうという連合を築いていきたいと考えています。



## 学校でのプログラム

ICANは、「平和を学ぶ(ラーン・ピース)」という教育プロジェクトを立ち上げ、小中学生に核兵器のない世界に貢献することを促す取り組みをしています。このプロジェクトの教材には、核軍縮に関する国連の模擬討論をおこなったり、「平和マーク」のオリジナル版に匹敵するようなシンボルをデザインしたり、核問題に関する世論調査をおこなったり、核をテーマにしたクイズ大会を開くといった活動の事例が紹介されています。

[www.icanw.org/learn\\_peace](http://www.icanw.org/learn_peace)



# 禁核。



**お医者さんの指示は？**  
核兵器禁止条約を支持しましょう。  
世界の中毒を終わらせるために。

**核兵器禁止条約にYes!**  
赤いバンドをつけよう。

## 核兵器禁止条約を日本から

広島・長崎を経験した日本は、被爆国として「核廃絶」を訴えてきました。そして戦争の過ちと苦しみをくり返さないために、平和憲法をもとに世界平和を呼びかけてきました。しかし日本政府は、いまだに核兵器禁止条約に賛成していません。国連では毎年「核兵器禁止条約への交渉開始」を求める決議案が出されますが、日本は棄権しています。核兵器禁止条約は「現実的でない」というのです。

その背景には、日本が米国の「核の傘」に頼っているという政策があります。米国の核兵器が日本を安全にしてくれる、と政府はいまだに考えているので

す。しかし、潘基文国連事務総長は「核兵器が国を安全にするというのは幻想だ。安全を保証する唯一の道は、核兵器の廃絶だ」(2010年7月、広島)と述べています。2011年の福島原発事故は、核が人間と環境にもたらす深刻な危険性を改めて見せつけました。

広島市長が会長をつとめる平和市長会議は、核兵器禁止条約を通じて2020年までに核兵器のない世界を実現することを求めています。多くの市民団体や被爆者団体も行動しています。日本政府が核兵器禁止条約に賛成するよう、働きかけましょう。

## 私もICANを応援します

稲川 淳二 (タレント・工業デザイナー)

大谷 昭宏 (ジャーナリスト)

海老名 香葉子 (エッセイスト)

早乙女 勝元 (作家)

ジェームズ三木 (脚本家・演出家)

辻井 喬 (詩人・作家)

松平 晃 (トランペット奏者)

松野 迅 (バイオリニスト)

森村 誠一 (作家)



稲川 淳二



海老名 香葉子



早乙女 勝元



ジェームズ三木



辻井 喬



松平 晃



松野 迅



森村 誠一

ICAN本部  
PO Box 1379  
Carlton VIC 3053  
Australia

Tel: +61 (0)3 9347 4795  
Fax: +61 (0)3 9347 4995  
E-mail: info@icanw.org  
URL: www.icanw.org

原版(英語) 2010年8月印刷  
日本語版 2011年5月作成・印刷  
監訳・川崎哲 (ICAN副代表 / ピースボート 03-3363-7561)  
発行・核戦争に反対する医師の会 (反核医師の会 03-3375-5121)